



ロバート・S・マクナマラ

Robert S. McNamara

“ベスト&ブライテスト”と呼ばれたトップエリート

ハーバード大学院卒業

フォード社社長、アメリカ国防長官、世界銀行総裁

——全てを歴任



また、同じ「過ち」を繰り返すのですか？

ケネディ、ジョンソン、フルシチョフ、カストロ、ホー・チ・ミン・・・マクナマラ。
戦争を止められなかった男が、赤裸々に。



本年度アカデミー賞受賞
長編ドキュメンタリー映画賞

第29回サンゼルス批評家協会賞受賞ドキュメンタリー映画賞

第86回ナショナル・ボード・オブ・レビュー受賞ドキュメンタリー映画賞

第56回カンヌ国際映画祭 正式出品作品

ソニー・ピクチャーズ クラシックス作品

©ラディカル・メディア&セナート・フィルム・プロダクション

グループ・デパートメント・ストア提携

エロール・モリス作品 “THE FOG OF WAR Eleven Lessons from the Life of Robert S. McNamara”

監督:エロール・モリス

製作:エロール・モリス、マイケル・ウィリアムズ、ジュリー・アールバーク

共同製作:ロバート・フェルナンデス

エグゼクティブ・プロデューサー:ジョン・ケイメン、ジャック・レッチナー、フランク・シャーマ、ロバート・メイ

撮影:ピーター・ドナヒュー、ロバート・チャペル

編集:カレン・シュミア、ダグ・エイブル、カイル・キング

プロダクション・デザイン:テッド・バファルコス、スティーヴ・ハーディ

音楽:フィリップ・グラス (オリジナル・サウンド・トラック/エルモ株式会社)

配給:ソニー・ピクチャーズ エンタテインメント



SONY PICTURES CLASSICS

DO NOT COPY

REGISTERED TRADEMARK

www.sonyclassics.com

www.sonyclassics.com

THE FOG OF WAR

エロール・モリス監督作品

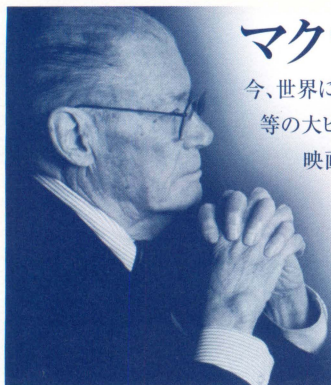
フォッグ・オブ・ウォー

マクナマラ元 米国防長官の告白



本年度アカデミー賞受賞

[長編ドキュメンタリー映画賞]



マクナマラ元米国防長官が語る、アメリカの真実

今、世界に空前のドキュメンタリー映画ブームが巻き起こっている。昨年の「WATARIDORI」「デブラ・ウインガーを探して」等の大ヒットが記憶に新しい中、今年「ボウリング・フォー・コロンバイン」のマイケル・ムーア監督の新作「華氏911」が、カンヌ映画祭グランプリに輝いた。そして、本年度アカデミー賞を受賞した本作は、世界平和への祈りをこめて「9.11」から日本での公開が決定。戦争と共に人生を歩んだアメリカのトップエリート、ロバート・S・マクナマラが、アメリカの“本音と建て前”を暴露する。なぜ、今、ドキュメンタリー映画なのか。それは、フィクションにはない、“リアリティ”ならではの率直さ、インパクトが我々に伝わるからである。今またここに、本作が一つの“リアリティ”を生みだし、世界を揺り動かそうとしている。

本作は、マクナマラに、戦争大国アメリカの“過去”を語らせることによって、世界の“今”に警鐘を鳴らすという、監督エロール・モリスの製作意図を鮮やかに映し出した本年屈指の衝撃作である。

「13デイズ」を見てキューバ危機が分かったつもりの人はぜひとも見るべし。

やっぱりリアルはすごい。

これが本当の真相だ。

アメリカ帝国最高指導者たちの心理がわかる。

日本敗戦も含め歴史の裏側が見えてくる。

立花隆さん(評論家)

正しい戦争などない、

と僕も思うけど、

なぜそこに陥るのかを感じられる映画だ。

小林武史さん(音楽プロデューサー)

こうやって歴史はつくられ、国、

ひいては全世界の命運が決められていく。

いかんともしがたい人間の業が戦争をひき起こし、

泥沼にはまっていく。

この映画が今公開される意味は

あまりにも重く、大きい。

安藤優子さん(キャスター)

(順不同)



フォッグ・オブ・ウォー

マクナマラ元 米国防長官の告白

ELEVEN LESSONS

from the Life of Robert S. McNamara

- 1: 敵の身になって考えよ
- 2: 理性は助けにならない
- 3: 自己を越えた何かのために
- 4: 効率を最大限に高めよ
- 5: 戦争にも目的と手段の“釣り合い”が必要だ
- 6: データを集めろ
- 7: 目に見えた事実が正しいとは限らない
- 8: 理由付けを再検討せよ
- 9: 人は善をなさんとして悪をなす
- 10: “決して”とは決して言うな
- 11: 人間の本質は変えられない

ハーバード大学院卒、フォード自動車会社社長、ケネディとジョンソン政権下で国防長官、そして世界銀行総裁をつとめ、アメリカンドリームを実現したスーパー・エリート、ロバート・S・マクナマラが、その栄光と影について赤裸々に語る!

マクナマラの華麗なキャリアは、実は東京大空襲、キューバ危機、ベトナム戦争と、20世紀に起きた多くの戦争に支えられていた。マクナマラは自分の体験を“フォッグ・オブ・ウォー=戦争の霧”だと語る。一度戦争の危機が起こると、賢明な政治家であっても、霧につつまれたように混乱してゆくというのだ。「アメリカは全能ではない」「人類は殺戮や紛争についてもっと真剣に考えなければならない。21世紀にも、同じことを繰り返したいのか?」今年88才のマクナマラは「11の教訓」と共に、新世紀へのメッセージを発してゆく。

9.11 土 都内独占ロードショー
特別鑑賞券発売中! ——— ¥1,500 (税込) (当日¥1800の処)

VIRGIN CINEMAS
ROPPONGI HILLS
ヴァージンシネマズ 六本木ヒルズ
六本木ヒルズ・けやき坂コンプレックス内 03(5775)6090
www.tohocinemas.co.jp/roppongi